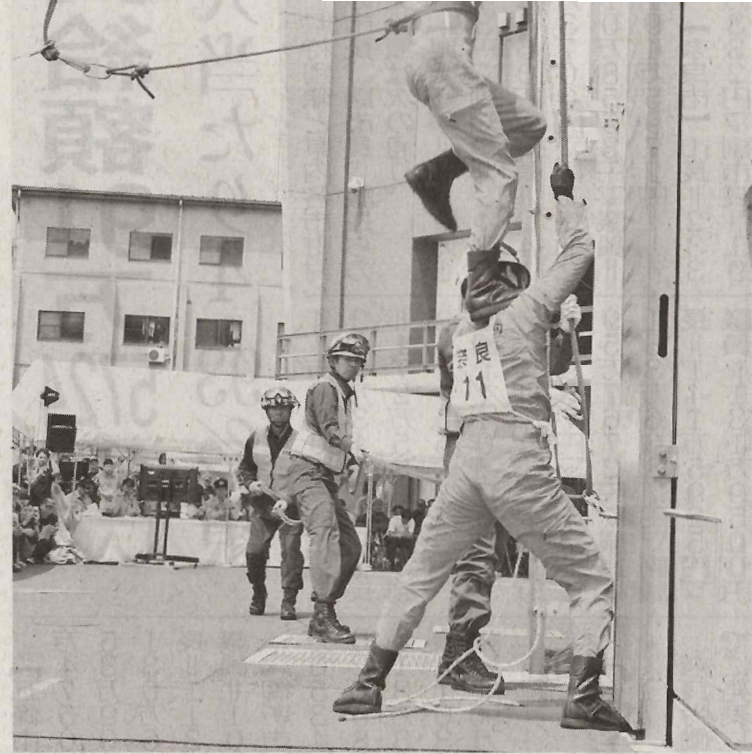


「第39」
が6月18
組合五條
県広域消
本部の隊

「第39」が6月18日、組合五條市、県広域消防本部の隊員らと、所要時間や安全性・確実性などを評価、東近畿地区指導会（7月24日、京都）▽全国大会（8月22日、



2人1組で壁を登る隊員＝同

人でも多くの命を助ける救助の原点は変わらない。体力、精神力、技術力、仲間との連携を磨き、現場活動に生かす」と宣誓した。出場隊員は仲間の声援を受けながら自己ベストに挑戦。「ロー

安心して働ける社会形成に貢献



士会
務つす本
労さ三條
保あい
会奈良
総長日航
会総長ル

県社労士会
奈良で総会

事業計画を承認

長が祝辞を述べた。本年度の事業計画は「使命を託された専門家として一人一人が安心して働ける社会づくりに貢献」とし、社労士制度推進▽会員の能力涵養（かんよう）▽社会貢献▽行政機関等との連携などに関する事業を盛り込んだ。総会後には、県社会保険労務士政治連盟の定期大会と懇親会もあり、会員らが交流を深めた。

れば。国際的に活躍する人材の成長拠点にしていきたい」と感謝の言葉を述べ、飯田監査役に感謝状と記念

の盾を贈った。留学生を代表し、インドネシア出身のマクシミア・ンド・レイワカベシさんは

「留学生に良い環境と機会を与えていただき感謝している。勉強と研究に励みたい」と感謝した。



開所式に参加した塩崎学長（前列左から4人目）と飯田監査役（同5人目）、留学生、関係者ら＝6月26日、奈良市中山町のNAIST拾薪寮

の製造販売などを手掛ける飯田グループ（大阪府八尾市・飯田豊彦社長）が、社員寮だった「拾薪寮」を改修して提供。

同グループの先代会長、飯田祐子さん（故人）は、長年留学生の支援を続け、自身の目標であった博士10人を送り出した。同社は遺志を継いで留学生支援に取り組む、教育・国際交流の社会貢献活動を続けている。開所式では飯田江利監査役が「拾薪寮が研究生生活に役立つことを願っている。大学・寮と共に3者で見守りたい」とあいさつ。塩崎学長は「安心の住まい、国際交流の場として発展でき



活ク良
ブエ奈
ッシ＝
ャロム町
キブ一条
工動ト市

子どもたちのワクチン支援に役立つ「エコキヤップ活動」に取り組んでいる。環境保全や地域との交流促進

よりよい未来へ貢献

医療法人
康仁会

エコキヤップ活動

医療法人康仁会（奈良市六条町、高比康臣会長）が、ペットボトルキャップのリサイクル収益を発展途上国

も目的。同法人が運営する介護などの4施設に回収ボックスを設置している。コロナ禍で少なくなった職員間や地域住民とのつながりを深めたいとの思いが出発点。施設職員や利用者

「長龍」「吉野杉の樽酒」など、奈良市中山町の同所で開かれた。きょう7月1日から留学生たちの新たな生活が始まる。

「長龍」「吉野杉の樽酒」など、奈良市中山町の同所で開かれた。きょう7月1日から留学生たちの新たな生活が始まる。